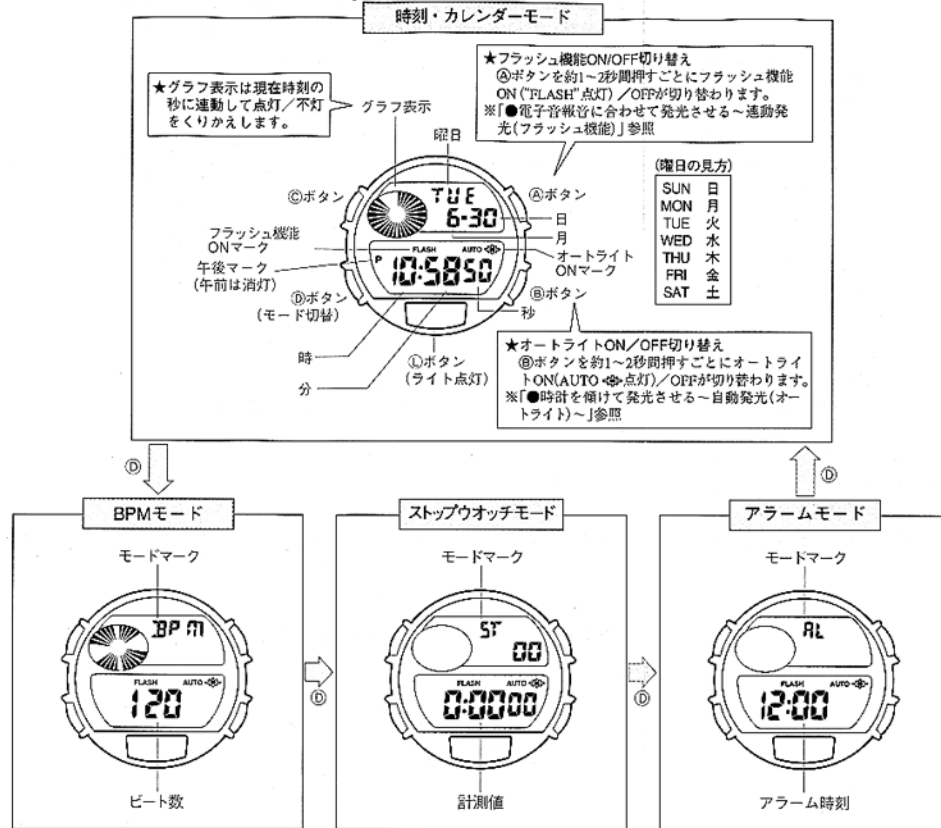


印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

操作のしくみと表示の見方

①ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順で表示が切り替わります。

※機種により形状が異なることがあります。



時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

■秒の合わせ方 ……30秒以内の遅れ/進みの修正

月に1度くらいこの秒合わせをしていただくと、時刻はいつも正確です。

(1)時刻・カレンダーモードのときに、

①ボタンを1~2秒間押しします
→「秒」が点滅します。

(2)時報に合わせて、
②ボタンを押しします

秒が00~29のときは切り捨てられ、30~59のときは1分くりあがって、「00」秒になります。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)秒合わせが終わりましたら、
③ボタンを押して点滅を止めます

※秒(時刻・カレンダー)セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2~3分後自動的に点滅が止まり、時刻・カレンダーモードに戻ります。

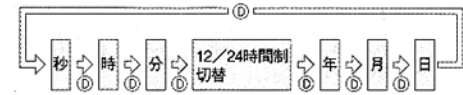
※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

■時刻・カレンダーの合わせ方

(1)時刻・カレンダーモードのときに、
④ボタンを1~2秒間押しします
→「秒」が点滅します。

(2)セット箇所を選ぶ
⑤ボタンを押しします

⑥ボタンを押すごとにセット箇所(点滅表示)が以下の順に移動します。時 分 秒



(3)点滅箇所のセット
⑦ボタンを押しします

→⑧ボタンを押すと点滅箇所の数字が1つずつ進みます。
※⑨ボタンを押し続けると数字が早送りします。

上記(2)~(3)の操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
※12/24時間制切替のときは、⑥ボタンを押すごとに12時間制「12H」と24時間制「24H」とが切り替わります。
※「時」のセットのとき午前/午後(P)、24時間制にご注意ください。
※「年」は1995~2039年までセットできます。
なお、「年」をセットすると自動的に曜日を表示します。

(4)セットが終わりましたら、
③ボタンを押して点滅を止めます

印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

表示照明用ELバックライトについて

本機の表示部にはELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）が内蔵されており、暗いときに表示を明るくして見ることができます。また、時計を傾けるだけで文字板が発光するオートライト機能や、電子音の報音に合わせて文字板が発光するフラッシュ機能もあります。

●ボタンを押して発光させる～手動発光～

●時刻・カレンダーモード、ストップウォッチモード、アラームモードのときは、

Ⓐボタンを押します

（時刻・カレンダーモード）



●BPMモードのときは、

Ⓑボタンを押します

→どのモード（表示）のときでも、文字板にあるELパネルが約2秒間発光します。なお、フラッシュ機能ON（“FLASH”点灯）のときは、約5秒間発光します。

※オートライトOFF（“AUTO”点灯）のときはⒶまたはⒷボタンを押すと発光します。

●時計を傾けて発光させる～自動発光（オートライト）～

オートライトは、ボタンを押さなくても文字板が発光する便利な機能です。暗い場所で時刻やストップウォッチの計測値などを見るときに大変便利です。

準備 時刻・カレンダーモードのときにⒷボタンを約1～2秒間押し、「AUTO」を点灯させて「オートライトON」にします。
※もう一度Ⓑボタンを約1～2秒間押し「AUTO」が消え、「オートライトOFF」になります。

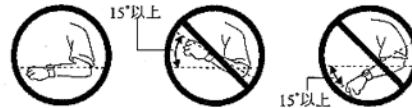


文字板を発光させる



→文字板にあるELパネルが約2秒間発光します。なお、フラッシュ機能ON（“FLASH”点灯）のときは、約2秒間発光した後、2秒間点滅します。

※オートライト機能を使用するときは、時計が「手首の外側」にくるようにつけてください。
※このとき、文字板の左右（3時～9時方向）の角度を±15°以内にしておいてください。15°以上傾いていると発光しにくくなります。



＜オートライトご使用時の注意＞

- オートライトが作動するのは、“AUTO”を点灯させてから約3時間です。それ以降は電池消費防止のため、自動的に“AUTO”が消え、オートライトOFFになります。
- ※引き続きオートライトを作動させたいときは、再度Ⓑボタンを約1～2秒間押し、「AUTO」を点灯させてください。ただし、オートライトを頻繁に使用すると電池寿命が短くなりますのでご注意ください。
- 時計を傾けたとき、文字板の発光が一瞬遅れることがあります異常ではありません。
- 文字板発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約2秒間のみとなります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。オートライトを使用しないときはOFFにしておいてください。
- ※時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると、発光しやすくなります。

●電子音報音に合わせて発光させる～連動発光（フラッシュ機能）～

フラッシュ機能は、電子音報音のタイミングに合わせて自動的に文字板が発光する機能です。また、フラッシュ機能ON（“FLASH”点灯）にすると、文字板の発光が手動発光では5秒間になり、オートライトでは約2秒間発光した後、2秒間点滅します。
※電子音報音（発光）のタイミングについては各機能の項目をご覧ください。

時刻・カレンダーモードのとき、

Ⓐボタンを約1～2秒間押しします

フラッシュ機能ONマーク



→Ⓐボタンを約1～2秒間押しごとにフラッシュ機能ON（“FLASH”点灯）/OFFが切り替わります。

＜EL発光についての注意事項＞

- 直射日光下では、発光が見えにくくなります。
- 発光中にいずれかのボタンを押したりアラームなどが鳴り出すと発光を中断します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これはELパネルが点灯する際の振動音であり、異常ではありません。

印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

BPM機能の使い方 時刻・カレンダーモードのときに④ボタンを1回押すと、BPMモードになります。

BPMは任意のビートを設定できます。セットしたビート（一定のリズム）で1分間電子音が鳴ります。

■BPM機能とは

BPM*とは、任意のビートで1分間電子音を鳴らすことのできる機能です。ラップなどで一定のリズムに合わせて音を出したり、動いたりするときに大変便利です。BPMモードに切り替えると、前回BPMモードで最後に設定したビート数を表示します。
*BPMはBeats Per Minuteの略で、1分間のビート数を意味します。

■ビートの再生

BPMモードのときに、

④ボタンを押します

→設定されているビートで1分間電子音が鳴ります。

※ビート再生中に④③②①ボタンのうち、いずれか1つを押すと音が止まります。

■ビートを設定する

ビートを設定するにはビート入力とビート数セットの2通りがあります。ビート数は5つごとに60～200の範囲で設定できます。なお、ビート数が多くなるほど、ビートは速くなります。

●ボタンを押してビートをを入力する（ビート入力）

BPMモードのときに、

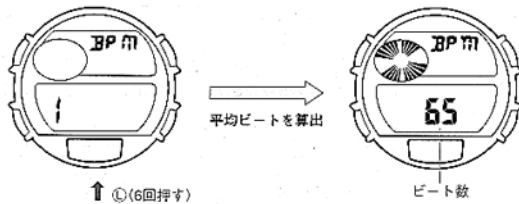
④ボタンを6回押します

→④ボタンを6回押すと、その平均ビートを算出し、表示します。

※④ボタンを押すごとに「1→2→3→4→0」と表示されます。

※④ボタンを6回押さないと、ビートは入力されません。

※ビート入力中に3秒間④ボタンによる操作がないと、BPMモードに戻ります。

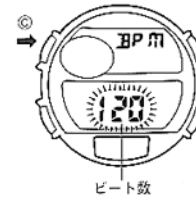


●ビート数を設定する（ビート数セット）

(1)BPMモードのときに、

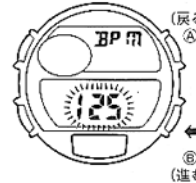
③ボタンを1～2秒間押します

→ビート数が点滅します。



(2) ⑥または④ボタンを押します

→⑥ボタンを押すと点滅箇所の数字が5つずつ進み、④ボタンを押すと5つずつ戻ります。※それぞれ押し続けると数字が早送りします。※表示が点滅しているときに、⑥ボタンと④ボタンを同時に押すと、ビート数が120になります。



(3)セットが終わりましたら、③ボタンを押して点滅を止めます

※セット表示のまま2～3分経過すると自動的に点滅が止まります。

●自動復帰…BPMモードのまま1時間ボタン操作を行なわないと、自動的に時刻・カレンダーモードに戻ります。

ストップウォッチの使い方

時刻・カレンダーモードのときに④ボタンを2回押すと、ストップウォッチモードになります。

ストップウォッチは23時間59分59秒(24時間計)まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウォッチモードのときに、

④ボタンを押すごとに計測がスタート/ストップします

★計測中に④ボタンを押すと、スプリット計測となります（“SPL”点灯）。もう一度④ボタンを押すとスプリットが解除されます。（スプリット計測中は、表示は止まりますが内部では計測を続けています。）

★計測終了後④ボタンを押すと計測値が0に戻ります。

※④・④ボタンともそれぞれ押すと操作確認音が鳴ります。

●通常計測

④ → ③ → ④
スタート → ストップ → リセット

※積算計測…ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート（④ボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

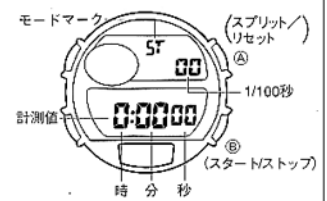
●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

④ → ④ → ④ → ④ → ④
スタート → スプリット → スプリット解除 → ストップ → リセット

●1・2着同時計測

④ → ④ → ④ → ④ → ④
スタート → 1着がゴール → 2着がゴール → 2着タイム表示 → リセット
(1着タイム表示)

（ストップウォッチモード）



印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

アラームの使い方

時刻・カレンダーモードのときに④ボタンを3回押すと、アラームモードになります。

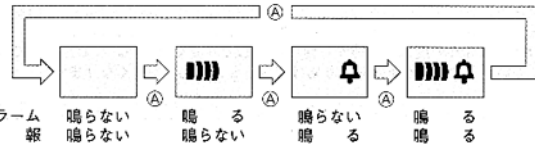
アラームは時・分を設定できます。セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせます。また、毎正時(00分)に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム・時報を鳴らすには

アラームモードのときに、
④ボタンを押します

→④ボタンを押すごとに以下の順でアラームON/OFFおよび時報ON/OFFが切り替わります。

※なお、アラーム時刻をセットすると「||||」が点灯し、自動的にアラームONとなります。
(「■アラーム時刻のセット」参照)



■アラーム・時報の報知方法

●アラームONのとき
セットしたアラーム時刻になると、20秒間電子音が鳴ります。

●時報ONのとき
毎正時(00分)になると、「ビッピッ」と電子音が鳴ります。

※このとき、いずれの場合でも、フラッシュ機能ON(「FLASH」点灯)にしておくと、電子音の報音に合わせて文字板が発光します。

■鳴っている電子音を止めるには
アラーム(時報)音およびこのときの文字板の発光を止めるには、④⑤⑥⑦⑧ボタンのうち、いずれか1つを押します。

■モニターアラーム

アラームモードのときに⑥ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。

〈時刻・カレンダーモード〉



■アラーム時刻のセット

(1)アラームモードのときに、

③ボタンを1~2秒間押します

→アラーム時刻の「時」が点滅します。

※このとき「||||」が点灯し、アラームONとなります。

(2)セット箇所を選ぶ

⑤ボタンを押します

→⑤ボタンを押すごとに「時」「分」が交互に点滅します。

(3)点滅箇所のセット

⑥ボタンを押します

→⑥ボタンを押すと点滅箇所の数字が1つずつ進みます。

※⑥ボタンを押し続けると数字が早送りします。

※「時」のセットのとき、12時間制では午前/午後(P)にご確認ください。

※時刻を24時間制にしているときは(24点灯)、アラーム時刻も自動的に24時間制表示となります。

(4)セット後、点滅を止めるには、

③ボタンを押します

※セット表示のまま2~3分経過すると自動的に点滅が止まります。

